

平成20年度 土木学会賞候補の募集

附：吉田研究奨励賞の募集、
土木学会委員会所管の表彰制度紹介

本年度土木学会賞候補の募集ならびに吉田研究奨励賞の募集をいたします。表彰規程および別記募集要項をご参照のうえ、ふるって推薦または応募されますようお願いいたします。推薦（応募）書用紙は下記の本会ホームページから取り出せます。

技術賞（Iグループ）と技術開発賞では、いわゆる「ハードウェア」のみならず、新しい制度の導入等の「ソフトウェア」についても、推薦または応募の対象となっています。

土木学会賞のうちの功績賞については公募いたしません。

なお、同一の候補について同一の方が2以上の各賞に推薦または応募されることは認めません。また、同一の候補について別々の方が2以上の各賞に推薦または応募された場合は、推薦者相互間で調整していただくことがあります。

◎平成19年度より、論文賞および論文奨励賞の候補対象が変更になっています。7頁に詳細を記載してありますので、ご確認ください。

◎「推薦の方法」が変わりましたので、ご注意ください。

社団法人 土木学会

〒160 - 0004 東京都新宿区四谷1丁目（外濠公園内）

TEL 03 - 3355 - 3442 / FAX 03 - 5379 - 0125

E - mail :office@jsce.or.jp

http://www.jsce.or.jp

■土木学会賞候補募集要項

種別項目	技術賞	環境賞	論文賞および論文奨励賞
候補対象	<p>【Iグループ】 具体的なプロジェクトに関連して、土木技術の発展に顕著な貢献をなし、社会の発展に寄与したと認められる計画、設計、施工または維持管理等の画期的な個別技術(情報技術、マネジメント技術を含む)。</p> <p>【IIグループ】 土木技術の発展に顕著な貢献をなし、社会の発展に寄与したと認められる画期的なプロジェクト。</p>	<p>【Iグループ】 土木技術・システムを開発・運用し、環境の保全・創造に貢献した画期的な業績およびプロジェクト。</p> <p>【IIグループ】 環境の保全・創造に資する概念形成・理論構築等に貢献した先進的あるいは国際的な土木工学的研究。</p>	<p>【論文賞】 原則として、土木学会誌、土木学会論文集、その他土木学会の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、独創的な業績をあげ、これが土木工学における学術・技術の進歩、発展に顕著な貢献をなしたと認められる優れた単一の論文に授与する。</p> <p>【論文奨励賞】 原則として、土木学会誌、土木学会論文集、その他土木学会の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、これが土木工学における学術・技術の進歩、発展に寄与し、独創性と将来性に富むものと認められた若手研究者に授与する。</p>
受賞候補	<p>【Iグループ】 個人あるいは団体。</p> <p>【IIグループ】 プロジェクト。</p>	<p>【I、IIグループ】 個人あるいは団体。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・応募時点において本会個人会員および海外の協力協定学協会会員の個人に限る。 ・過去に論文賞を受賞した者は再び受賞候補者となり得るが、論文奨励賞を受賞した者は同一の賞の候補者になることができない。 ・過去に論文奨励賞を受賞した論文で論文賞の候補になることはできない。 ・論文奨励賞の受賞候補者は、受賞者の年齢が平成21年の4月1日現在で満36歳未満の者であり、候補論文は候補者が筆頭著者の単一の論文とする。 ・共著者に受賞候補になることができない者が含まれていることは差支えない。
候補の範囲	平成19年1月1日から平成20年12月31日までの間におおむね終了した業績とする。	平成16年1月1日から平成20年12月31日までの間に終了した業績・プロジェクトおよび研究とする。ただし、継続中の業績・プロジェクトおよび研究であっても十分な実績が得られていると考えられるものは、候補対象とする。	平成19年1月1日から平成20年12月31日までの間に発表されるもので、原則として、土木学会論文集、その他土木学会の刊行物に搭載されたものに限る。ただし研究の経緯等で必要な場合は、過去4年以内に発表された論文(学会関係に限定)を2編まで参考論文にすることは認められる。
推薦の方法	推薦者は正会員(個人、法人)、特別会員および土木事業に関連する学・協会とし、自薦も認める。推薦者は別に定める推薦書、候補業績の要旨各1部を提出する。なお、当該業績に関する参考資料を添付することを妨げない。	推薦者は正会員(個人、法人)、特別会員および土木事業に関連する学・協会とし、自薦も認める。推薦者は、別に定める(HPに掲載)推薦書と添付資料(pdf形式)を環境賞選考委員会宛に提出する(原則としてE-mailにて提出)。	推薦者は正会員(個人、法人)、および特別会員とし、自薦も認める。応募に必要な提出物は以下のとおり。 ①別に定める様式による推薦書1部 ②推薦論文(別刷またはコピー可)8部 ③その他、推薦者が審査にあたって必要と思われる資料があれば8部
審査	表彰委員会において行う。	環境賞選考委員会において行う。	論文賞選考委員会において行う。
開催の有無	推薦者または推薦者の指定する代理人に出席を求め説明を受ける(実施については事務局から別途通知する)。説明の際に使用できる機器:パソコン(html形式またはパワーポイントで作成すること)	推薦者または推薦者の指定する代理人に出席を求め説明会を開催する(期日等については事務局から別途通知する)。参考資料(説明用PPT資料、パンフ等)を席上配布することができる。説明の際に使用できる機器:パソコン(html形式またはパワーポイントで作成すること)	開催しない。
表彰	通常総会において、賞状、賞牌を贈る。	通常総会において、賞状、賞牌を贈る。	通常総会において行い、賞状、賞牌を贈る。
締切期日	平成21年1月20日(火)(必着)		平成20年12月24日(水)(必着)
提出先	〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目(外濠公園内) 土木学会 表彰委員会 TEL 03-3355-3442	〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目(外濠公園内) 土木学会 環境賞選考委員会 TEL 03-3355-3442 / E-mail: office@jsce.or.jp	〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目(外濠公園内) 土木学会 論文賞選考委員会 TEL 03-3355-3442

注: 推薦(応募)書用紙は本会ホームページより取り出せます。取り出せない場合は、土木学会事務局企画総務課または各支部にお問合わせください。

吉田賞	田中賞	技術開発賞
<p>【研究業績部門】 コンクリートに関する技術の進歩、発展に顕著な業績を挙げたと認められる者を対象とする。</p> <p>【論文部門】 土木学会の刊行物に発表されたコンクリートに関する単独の論文、報告等で、コンクリート工学の発展に大きく貢献したと認められるものを対象とする。</p>	<p>【研究業績部門】 橋梁に関する技術の進歩、発展に顕著な業績を挙げたと認められる者を対象とする。</p> <p>【論文部門】 土木学会刊行物に発表され、計画、設計、製作・施工、維持管理、考案、歴史などに関連して橋梁工学の発展に大きく貢献した、論文、報告を対象とする。</p> <p>【作品部門】 橋梁およびそれに類する構造物の新設または改築で、計画、設計、製作・施工、維持管理などの面において特色を有する作品を対象とする。なお、構造物に適用された特殊な技術、革新的な技術も作品とみなす。また、規模の大小は問わない。</p>	<p>計画、設計、施工、または維持管理等において、創意工夫に富むと認められる技術(情報技術、マネジメント技術を含む)を開発、実用化し、土木技術の発展を通じて、社会に貢献したと認められるもの。</p>
<p>【研究業績部門】 本会会員の個人とする。 ただし、既受賞者(研究業績部門で昭和60年度以降授与された者)は受賞候補者となることはできない。</p> <p>【論文部門】 本会会員あるいは海外の協力協定学協会の会員で、個人またはその複数。 なお、共著者の一部を除いて受賞候補者を推薦する場合、推薦者は必ず受賞候補者の貢献について具体的に明記すること。</p>	<p>【研究業績部門】 本会会員の個人。ただし、既受賞者(研究業績部門)は受賞候補者となることはできない。</p> <p>【論文部門】 本会会員および海外の協力協定学協会の会員で、個人またはその複数。ただし、共著者を受賞候補者から省いて推薦する場合は、必ず受賞候補者の貢献度を具体的に明記すること。</p> <p>【作品部門】 作品自身を対象とする。</p>	<p>ひとりまたは複数(5名以内)の個人。 ただし、ひとりの場合は土木学会正会員とし、複数の場合は、土木学会正会員(個人)が半数以上参加し、主要な役割を果たしているものとする。</p>
<p>【研究業績部門】 平成16年1月1日から平成20年12月31日まで(5年間)の間に、各種刊行物に発表された論文、設計・施工・計画・考案などの報告等を参考とする。 なお、同一の問題につき、当該期間以前において発表されたものを加えて総合題目とすることもできる。</p> <p>【論文部門】 平成19年1月1日から平成20年12月31日まで(2年間)の間に発表されたものとする。</p>	<p>【論文部門】 平成19年1月1日から平成20年12月31日までの間に土木学会刊行物に発表された論文、報告1編とする。 ただし、参考論文2編まで添付することができる。</p> <p>【作品部門】 平成19年1月1日から平成20年12月31日までの間に完成した作品を対象とする。完成の時期については、原則的には供用開始のときとする。なお、その他一連の工事の一部としての橋梁等の構造物では、そのもの自身が完成したと見なされるときとする。ただし、軌道、舗装等は未施工でもよい。</p>	<p>技術開発の行われた時期は問わないが、おおむね、最近5か年以内実績が認められ、その技術内容が技術雑誌等に公表されたものとする。</p>
<p>【研究業績部門】 推薦者は、正会員(個人、法人)および特別会員とする。なお、自らの推薦は認めない。 推薦者は、別に定める様式による推薦書1部と、候補者により発表された論文、報告等27部を推薦書に添えて提出しなければならない。</p> <p>【論文部門】 推薦者は、正会員(個人、法人)および特別会員とする。なお、自らの推薦でもよい。 推薦者は、別に定める様式による推薦書1部と、候補者により発表された論文、報告等8部を推薦書に添えて提出しなければならない。</p>	<p>【研究業績部門】 推薦者は、正会員(個人、法人)、および特別会員とし、自薦は認めない。 推薦者は別に定める様式による推薦書1部を提出する。 参考論文等が土木学会誌、土木学会論文集以外に発表されている場合は、推薦書に添えてコピー28部(A4判)を提出しなければならない。</p> <p>【論文部門】 推薦者は、正会員(個人、法人)、および特別会員とし、自薦も認める。 推薦者は、別に定める様式による推薦書1部と、候補論文のコピー28部(A4判)を提出しなければならない。</p> <p>【作品部門】 推薦者は正会員(個人、法人)、特別会員および土木事業に関連する学・協会とし、自薦も認める。推薦者は別に定める候補推薦書を、コピーを含めて28部を提出する(写真(鮮明なカラーコピーでも可)はおのおのに添付すること)</p>	<p>推薦者は、正会員(個人、法人)、特別会員および土木事業に関連する学・協会とし、自薦は認めない。推薦者は、別に定める(ホームページ参照)応募調書、当該業績に関し技術雑誌等に発表された資料(コピー可)を各1部、技術概要書(A3判-横長)を22部提出する。なお、必要に応じ資料部数の追加を求められることがある。</p>
<p>吉田賞選考委員会において行う。</p>	<p>田中賞選考委員会において行う。 なお、必要のあるときは、さらに関係資料の提出を求めることがある。</p>	<p>技術開発賞選考委員会において行う。</p>
<p>開催しない。</p>	<p>作品部門については、内容説明会を開催するので、候補関係者はこれに出席して作品の内容を説明しなければならない(実施については事務局から別途通知する)。 説明の際に使用できる機器：パソコン(html形式またはパワーポイントにて作成すること)</p>	<p>候補者に出席を求め説明を受ける。説明の際にパソコンが使用できる(実施については事務局から別途通知する)。</p>
<p>通常総会において行い、賞状、賞牌、賞金を贈る。</p>	<p>通常総会において行い、賞状、賞牌を贈る。</p>	<p>通常総会において行い、賞状、賞牌を贈る。 ただし、受賞者が複数の場合は、賞状は全員に贈り、賞牌は代表者に贈る。</p>
平成21年1月20日(火) (必着)		
<p>〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目(外濠公園内) 土木学会 吉田賞選考委員会 TEL 03-3355-3442</p>	<p>〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目(外濠公園内) 土木学会 田中賞選考委員会 TEL 03-3355-3442</p>	<p>〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目(外濠公園内) 土木学会 技術開発賞選考委員会 TEL 03-3355-3442</p>

注：推薦はすべて個人名で推薦するものとし、法人会員、特別会員、海外分会、土木事業に関連する学・協会および海外協力協定学協会についてはそれぞれを代表する者あるいは土木学会長の認めるものとする。

注：会員は定款第6条により、①正会員(個人会員と法人会員からなる)、②学生会員、および③特別会員(民間会社の支店、官庁の地方分局など)に分かれる。

■土木学会賞候補募集要項

種別項目	出版文化賞	国際貢献賞および国際活動奨励賞	技術功労賞
候補対象	出版文化賞は土木に関連する出版物で、土木工学、土木技術の発展に貢献し、あるいは読者に感銘を与えることにより、土木文化の活動の一環となりうると認められた出版物を対象とし、その著者を表彰する。	【国際貢献賞】 海外における土木工学の進歩発展あるいは社会資本整備に貢献し、現地で高く評価された日本人、並びに日本の土木工学の発展あるいは日本の土木技術の国際交流に貢献したと認められた外国人。過去に国際活動奨励賞を受賞したのも国際貢献賞の受賞候補となりうる。 【国際活動奨励賞】 海外における土木工学の進歩発展あるいは社会資本の整備において、現地国での土木技術の発展に独創性をもって寄与し、国際貢献への活動が今後とも期待される日本人技術者で、平成21年4月1日現在で満50歳以下である者。	長年にわたり人目につきにくい業務に従事し、地道な実務の積み重ねを通じて土木工学の進歩発展に功労のあった者。技術功労賞の対象分野としては、次の6分野がある。 (1)教育・研究・啓発 (2)調査・計画 (3)設計・監理 (4)用地・補償 (5)施工・検査 (6)管理・運用・防災・保全
受賞候補	本会会員に限らない。	個人(本会会員の資格の有無を問わない) 「国際貢献賞」は、地道な国際的な貢献の積み重ねの成果に対して授与されます。この趣旨を十分にご配慮ください。	個人(本会会員の資格の有無を問わない) 「技術功労賞」は「功績賞」とは性質を異にし、人目につきにくい業務に長年にわたって従事するとともに、地道な実務の積み重ねの成果に対して授与されます。この趣旨を十分にご配慮ください。
候補の範囲	以下の条件を満たす出版物を候補対象とする。 (1)平成17年12月21日から平成20年12月20日の3年間に発行された出版物とする。 (2)市販された出版物あるいは図書館などでの公開が保証されている出版物(電子出版物を含む。ただし土木学会出版物は除く)。 (3)新規の著作として一定の水準を確保している出版物(ハンドブック、マニュアル、便覧の類、資格試験参考書、あるいは改訂版で一部のみが改訂されたもの等は除く)。 (4)特に複数の執筆者等による共著、共訳においては、それぞれの執筆個所が明記されるなど各著者等の対象作品における貢献度合いが明瞭に判別できる出版物。 注)なお詳細は出版文化賞選考委員会HPに掲載の「土木学会出版文化賞候補・推薦にあたっての留意点」を参照のこと。	平成20年12月末までの業績とする(平成20年度)。	平成20年12月末までの業績とする。
推薦の方法	(1)推薦資格者:正会員(個人、法人)、学生会員および特別会員とし、自薦も認める。 (2)推薦件数:2件以内。ただし、本会の理事、監事、支部長、委員会委員長、フェロー会員は3件以内。 (3)推薦の手続き ・推薦作品に関わる下記の項目を所定の推薦用紙(HPに掲載)にて出版文化賞選考委員会宛提出する(提出方法は郵便、FAX、E-mail等いずれも可)。 a.推薦者氏名・会員種別 b.推薦者所属 c.推薦者連絡先(住所・電話番号・FAX番号・E-mailアドレス) d.推薦作品名・著者・発行所・発行年月日 e.推薦文(推薦作品の優れている点、土木への貢献度を500字以内にまとめる) 注)市販されていない出版物の場合は推薦書に必ず1冊以上を添えて提出(寄贈)のこと。一般に市販されている出版物の場合は推薦書のみで可。	・推薦者は、名誉会員、フェロー会員、法人会員、特別会員および海外分会、並びに選考委員会が認める土木事業に関連する官・学・協会・法人および海外協力協定学協会とし、自薦は認めない。 ・推薦者は別に定める推薦書を一部提出する。 ・なお、当該業績に関する参考資料を添付することを妨げない。	・推薦者は正会員(個人、法人)、特別会員および土木事業に関連する学・協会とし、自薦も認める。 ・推薦者(応募者)は別に定める推薦書を1部提出する(20年度推薦書を使用する)。 ・なお、当該業績に関する参考資料を添付することを妨げない。
審査	出版文化賞選考委員会において行う。	国際貢献賞選考委員会において行う。	技術功労賞選考委員会において行う。
内容説明会開催の有無	開催しない。	開催しない。	開催しない。
表彰	通常総会において行い、賞状、賞牌を贈る。ただし、共著者の場合は、賞状は全員に贈り、賞牌は代表者に贈る。また、同時に受賞作品の出版社に対して感謝状を贈呈する。なお、翻訳作品を受賞対象とした場合は、原著者、翻訳者を表彰する(この場合の表彰方法は委員会で定める)。	【国際貢献賞】 通常総会において、賞状・賞牌を贈る。 【国際活動奨励賞】 通常総会において、賞状を贈る。	通常総会において、賞状・賞牌を贈る。
締切	平成20年12月20日(土)(必着)	平成21年1月20日(火)(必着)	
提出先	〒160-0004/東京都新宿区四谷1丁目(外濠公園内)土木学会出版文化賞選考委員会 TEL:03-3355-3596/FAX:03-3355-6055/E-mail:library@jsce.or.jp 出版文化賞に関するホームページのアドレスは以下の通りです。推薦要項の他、過去の受賞作品の紹介なども掲載しておりますので、ご活用ください。 http://www.jsce.or.jp/committee/pub/prize/	〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目(外濠公園内) 土木学会国際貢献賞選考委員会 TEL.03-3355-3442	〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目(外濠公園内) 土木学会技術功労賞選考委員会 TEL.03-3355-3442

注:海外の協力協定学協会会員については、それを証明するものを添付してください。海外の協力協定学協会名は、1-7頁をご覧ください。ご不明な点は企画総務課(TEL 03-3355-3442)へお問合せください。

注:各賞に関わる事前説明は固くお断りいたします。

土木学会表彰規程

【総 則】	第 1 条	この規程は、土木学会細則第 41 条に規定する土木学会賞（総称）について定める。
【賞 の 構 成】	第 2 条	土木学会賞は、次に掲げる各賞により構成される。 (1)功績賞 (2)技術賞 (3)環境賞 (4)論文賞および論文奨励賞 (5)吉田賞 (6)田中賞 (7)技術開発賞 (8)出版文化賞 (9)国際貢献賞および国際活動奨励賞 (10)技術功労賞
【募集、選考および表彰方法】	第 3 条	土木学会賞に含まれる各賞の募集および選考にかかる業務を行うため、表彰委員会（以下「委員会」という）および各選考委員会を設置する。委員会および各選考委員会の活動については、別に定める。 2. 土木学会賞受賞者等は、委員会の推薦に基づいて理事会で決定し、原則として毎年通常総会において表彰する。
【功 績 賞】	第 4 条	功績賞は、本会会員であって、土木工学の進歩、土木事業の発達、土木学会の運営に顕著な貢献をなしたと認められた者に授与する。
【技 術 賞】	第 5 条	技術賞は、Ⅰグループ：具体的なプロジェクトに関連して、土木技術の発展に顕著な貢献をなし、社会の発展に寄与したと認められる計画、設計、施工または維持管理等の画期的な個別技術（情報技術、マネージメント技術を含む）およびⅡグループ：土木技術の発展に顕著な貢献をなし、社会の発展に寄与したと認められる画期的なプロジェクトに授与する。
【環 境 賞】	第 6 条	環境賞は、Ⅰグループ：土木技術・システムを開発・運用し、環境の保全・創造に貢献した画期的な業績およびプロジェクト、Ⅱグループ：環境の保全・創造に資する概念形成・理論構築等に貢献した先進的あるいは国際的な土木工学的研究に授与する。
【論文賞および論文奨励賞】	第 7 条	論文賞は、本会個人会員（海外の協力協定学協会の個人会員は本会会員とみなす）であって、原則として、土木学会論文集、その他土木学会の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、独創的な業績を挙げ、これが土木工学における学術・技術の進歩、発展に顕著な貢献をなしたと認められる優れた単一の論文に授与する。 (2) 論文奨励賞は、本会個人会員（海外の協力協定学協会の個人会員は本会会員とみなす）であって、原則として、土木学会論文集、その他土木学会の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、これが土木工学における学術・技術の進歩、発展に寄与し、独創性と将来性に富むものと認められた若手研究者で、受賞者の年齢が平成 21 年の 4 月 1 日現在で満 36 歳未満である者に授与する。ただし、候補論文は候補者が筆頭著者の単一の論文とする。
【吉 田 賞】	第 8 条	吉田賞は、次の 2 部門に分けて授与する。 (1) 研究業績部門：コンクリートに関する技術の進歩、発展に顕著な業績を挙げたと認められる者を対象とし、各種刊行物に発表された論文、設計・施工・計画・考案などの報告等を参考とする。受賞候補者は本会会員の個人とする。 (2) 論文部門：土木学会の刊行物に発表されたコンクリートに関する論文、報告等で、コンクリート工学の発展に大きく貢献したと認められるものを対象とする。受賞候補者は本会会員の個人またはその複数とする（ただし、海外の協力協定学協会の個人会員は本会会員とみなす）。
【田 中 賞】	第 9 条	田中賞は、次の 3 部門に分けて授与する。 (1) 研究業績部門：橋梁に関する技術の進歩、発展に顕著な業績を挙げたと認められる者を対象とする。受賞候補者は本会会員の個人とする。 (2) 論文部門：土木学会刊行物に発表された論文、報告の中で、計画、設計、製作・施工、維持管理、考案、歴史などに関連して橋梁工学の発展に大きく貢献したと認められた論文を対象とする。受賞候補者は本会会員で、個人またはその複数とする（ただし、海外の協力協定学協会の個人会員は本会会員とみなす）。 (3) 作品部門：橋梁およびそれに類する構造物の新設または改築で、計画、設計、製作・施工、維持管理などの面において特色を有する作品を対象とする。なお、構造物に適用された特殊な技術、革新的な技術も作品とみなす。また、規模の大小は問わない。
【技 術 開 発 賞】	第 10 条	技術開発賞は、計画、設計、施工、または維持管理等において、創意工夫に富むと認められる技術（情報技術、マネージメント技術を含む）を開発、実用化し、土木技術の発展を通じて、社会に貢献したと認められる者に授与する。
【出 版 文 化 賞】	第 11 条	出版文化賞は、土木に関連する出版物で、土木工学・土木技術の発展に貢献し、あるいは読者に感銘を与えることにより、土木文化活動の一環となりうると認められた出版物の著者を対象とする。
【国際貢献賞および国際活動奨励賞】	第 12 条	国際貢献賞は、海外における土木工学の進歩発展あるいは社会資本整備に貢献し、現地でも高く評価された日本人、並びに日本の土木工学の発展あるいは日本の土木技術の国際交流に貢献したと認められた外国人に授与する。 (2) 国際活動奨励賞は、海外における土木工学の進歩発展あるいは社会資本の整備において、現地国での土木技術の発展に独創性をもって寄与し、国際貢献への活動が今後とも期待される日本人で受賞年の 4 月 1 日現在で満 50 歳以下の者に授与する。
【技 術 功 労 賞】	第 13 条	技術功労賞は、長年にわたり人目につきにくい業務に従事し、地道な実務の積み重ねを通じて土木工学の進歩発展に功労があった者に授与する。受賞候補者は個人とし、本会会員の資格の有無を問わない。
【選 考 委 員 会】	第 14 条	土木学会賞のうち功績賞および技術賞を除く土木学会賞の選考にかかる作業を行うため、次の選考委員会を置く。各選考委員会は、選考結果を委員会に上申する。 (1)環境賞選考委員会 (2)論文賞選考委員会 (3)吉田賞選考委員会 (4)田中賞選考委員会 (5)技術開発賞選考委員会 (6)出版文化賞選考委員会 (7)国際貢献賞選考委員会 (8)技術功労賞選考委員会 2. 各選考委員会の構成、運営、その他については、別に内規で定める。
附 則		この規程は、理事会の議決により変更することができる。

平成19年度の土木学会賞受賞者(敬称略)

功績賞	片山恒雄、伯野元彦
技術賞	I グループ (独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構 鉄道建設本部 東北新幹線建設局/小土振り・滞水土砂地山における経済的かつ適用性の高い新しいトンネル施工技术—東北新幹線八戸・七戸間トンネル群— 国土交通省 関東地方整備局 京浜港湾事務所、国土交通省 関東地方整備局 横浜港湾空港技術調査事務所、(独)港湾空港技術研究所/海岸景観及び海域環境に配慮した「安心と憩いを提供する」護岸整備～横須賀港馬場海岸高潮対策事業～ 中日本高速道路(株) 横浜支社 掛川工事事務所、鹿島・竹中土木・青木あすなろ建設共同企業体、奥村組・大日本土木・太平洋工業共同企業体/脆弱地山における超大断面長大道路トンネルの掘削—第二東名高速道路金谷トンネル— 東日本旅客鉄道(株) 東京工事事務所、東京都、鹿島建設(株)、鉄建建設(株)、ジェイアール東日本コンサルタンツ(株)/輸送密度の高い線区における既設鉄道橋梁の合理的なスパン長大化技術 東京ガス(株)/スピードが求められる時代に適合した建設プロジェクト・マネジメント—都心部を貫く23.1km 高压ガス幹線【中央幹線】の建設— II グループ 関西国際空港用地造成(株)/関西国際空港2期用地造成事業—大水深、軟弱地盤の埋立における情報化施工技术を駆使した大規模急速施工— 国土交通省 北海道開発局/忠別ダム建設～砂礫上に建設した国内最大級の複合型ダム～ 西日本高速道路(株) 関西支社、西日本高速道路(株) 関西支社 大津工事事務所、中日本高速道路(株) 名古屋支社、中日本高速道路(株) 名古屋支社 龜山工事事務所/新名神高速道路龜山 JCT～草津田上 IC間の完成 国土交通省 東北地方整備局 塩釜港湾・空港整備事務所、宮城県、仙台空港鉄道(株)、(独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構 鉄道建設本部 東京支社、東日本旅客鉄道(株) 東北工事事務所/拠点空港の機能強化と地域開発に貢献する空港アクセス鉄道の建設 国土交通省 中部地方整備局 三峰川総合開発工事事務所/多目的ダムでは国内初の排砂バイパスの建設—美和ダム再開発 洪水バイパス施設— 中国電力(株)/大正時代に築造された老朽コンクリートダムの再生—帯沢川ダム再開発事業— 首都高速道路(株)/地下都市高速道路の時代を開く「環状道路」の建設—首都高速中央環状線(新宿～池袋)—
環境賞	I グループ アニマルパスウェイ研究会/樹上動物のためのアニマルパスウェイに関する研究と実績 国土交通省 近畿地方整備局 神戸港湾空港技術調査事務所、(独)港湾空港技術研究所、(社)日本作業船協会/小型の環境整備船に搭載可能な新たな油回収システムの開発～油回収の効率化による閉鎖性海域の環境保全～ 東京地下鉄(株)、大成建設(株)、パンフィックコンサルタンツ(株)/地下鉄営業線内における石綿除去 鹿島建設(株)、鹿島道路(株)/油含有土壌の低温加熱浄化技術による定置式浄化事業 国土交通省 九州地方整備局 武雄河川事務所、NPO 法人 アザメの会/松浦川アザメの瀬自然再生 II グループ 青木伸一、中村由行、野原精一、日向野純也、古川恵太、水谷法美、上田敏隆、加藤博之/生態系手法(Ecological approach)を取り入れた港湾計画の決定 (独)都市再生機構、(財)都市緑化技術開発機構、鹿島建設(株) 土木設計本部/地域生態系に配慮した都市インフラ計画技術～エコロジカルネットワーク評価およびシミュレーション技術の開発～
論文賞	白土博通、松本 勝/鉛直変動気流中の物体表面圧力とガスト空気力の時間空間変動特性に関する実験的研究 柳嶋慎一、加藤一正、長谷川巖、岩佐直人/透水層埋設による海浜の安定化 風間基樹、高村浩之、海野寿康、仙頭紀明、渦岡良介/不飽和火山灰質砂質土の液状化機構について 小林潔司、湧川勝己、大西正光、伊藤弘之、関川裕己/世帯の復旧資金の調達と流動性制約 石田哲也、李 春鶴/微細空隙構造と物質平衡・移動の熱力学強連成に立脚したコンクリートの炭酸化反応モデル 中村敏晴、三澤孝史、向 広吉、近藤政弘、谷村幸裕/鋼管を用いた杭頭接合部に関する実験的研究 山崎智弘、中村由行、益永茂樹/港湾域における有機スズ化合物の存在特性と水中回帰に関する現地調査
論文奨励賞	青木 功/多重分岐点における分岐経路探索のための修正剛性法の改良 村上智一/気象モデルおよび多重σ座標系海洋モデルを用いた台風0416号による広域高潮の再現 小玉齊明/間隙水の凍結に伴う岩石の力学的特性変化と変形挙動 円山琢也/交通需要のレベル別便益指標の一致性 浅本晋吾/骨材特性との連関を考慮した複合構成モデルによるコンクリートの収縮解析 菊本智樹/乗用車専用小型道路トンネルにおける火災時の煙挙動に関する模型実験
吉田賞	【研究業績部門】 町田篤彦/鉄筋コンクリート構造の耐震性状と設計法に関する研究 【論文部門】 国枝 稔、Worapong SRISOROS、岸山雄多佳、中村 光、石川靖男/若材齢コンクリートの硬化過程および荷重履歴を考慮したひび割れ構成則に関する研究 川端雄一郎、山田一夫、松下博通/岩石学的分析に基づいた安山岩の ASR 反応性評価および膨張挙動解析
田中賞	【論文部門】 松本信之、田辺 誠、涌井 一、曾我部正道/非線形応答を考慮した鉄道車両と構造物との連成応答解析法に関する研究 佐野泰如、小池洋平、大森邦雄/複弦アーチリブの橋軸直角方向地震時耐力に関する検討 三木千壽、平林泰明/施工の不具合を原因とする疲労損傷 【作品部門】 新豊橋、九重、夢、大吊橋、港大橋の巨大地震に対する構造再生、山切1号高架橋、多摩大橋
技術開発賞	大下武志、竹口昌弘、中谷眞二、浅野 均/工事中の渋滞緩和を旨とした交差点急速立体化工法(すいすい MOP 工法)の開発 前田 稔、中庭和秀/クラックスケール内蔵型光波測量器の開発と構造物等の変状計測システムの構築 飯島啓秀、半野久光、土橋 浩、並川賢治、川田成彦/大断面シールドトンネル切り開き技術の開発 山田紀之、大久保英也、森田泰司、高見澤計夫、望月 修/大断面分割シールド工法(ハーモニカ工法)の開発
出版文化賞	リチャード・E・グッドマン著 赤木俊伏訳/土質力学の父 カール・テルツァーギの生涯—アーティストだったエンジニア—
国際貢献賞	泉堅二郎、井上聰史、岩田鎮夫、陳 振川
国際活動奨励賞	今村文彦、大西一宏、亀田弘文、河合信之、川村哲也、栗山善昭、酒井邦登、柴田純治、茶林一彦、野田雄一郎、藤山秀章、三品孝洋、村重 宏、柳原正浩、山本茂治
技術功労賞	【教育・研究・啓発の分野】 小澤源三、佐々木静男 【調査・計画の分野】 柿崎孝夫 【設計・監理の分野】 土井博己 【施工・検査の分野】 請閑 誠、大場義人、清水秀敏、杉浦乾郎 【管理・運用、防災、保全の分野】 臼井要二、後藤廣太郎

吉田研究奨励賞募集要項

1. 候補対象 コンクリート、鉄筋コンクリートおよびプレストレストコンクリートに関する研究に従事し、特に独創性があり将来性に富むと認められる者の個人または複数(3名以内)。ただし、応募締切時において満40歳以下の本会会員に限る。原則として、すでに吉田研究奨励賞(平成4年度までは吉田研究奨励金)を授与された者を除く。
2. 募集の方法 候補対象者本人の応募による。
3. 応募の方法 所定様式により研究計画書を提出する。(計画書の様式は本会ホームページより取り出せます。取り出せない場合は、土木学会本部企画総務課または各支部にお問合わせください。)
4. 審査 吉田賞選考委員会において、研究計画を審査し、授賞者および賞金額を決定する。
5. 表彰 第95回通常総会にて行い、賞状および賞金を贈る。
6. 応募の締切期日 平成21年1月20日(火)(必着)
7. 提出先 〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目(外濠公園内)土木学会 吉田賞選考委員会
8. 研究成果の発表と報告 研究成果報告書を平成22年6月30日までに吉田賞選考委員会に提出するほか、研究計画終了翌年度の年次学術講演会または土木学会刊行物において、吉田研究奨励賞を授与された研究であることを明らかにして発表しなければならない。ただし、この場合、被授与者以外の者を連名者に加えることはできるが、講演者または筆頭者にならないものとする。また、前記以外に発表する場合にも、吉田研究奨励賞を授与された研究である旨を明記しなければならない。

※土木学会吉田賞「国際研究集会等への参加援助制度」については、平成18年度から当面の間、実施しないことといたしました。

平成20年度論文賞および論文奨励賞の候補対象の変更について

平成19年度より、土木学会論文賞および論文奨励賞の候補対象が下記の様に変更になっています。推薦(応募)される際は、ご注意下さい。

◆論文賞

総合題目での推薦(応募)をとりやめ、候補論文は単一論文となります。ただし、研究の経緯等で必要な場合は、過去4年以内に発表された論文(学会関係に限定)を2編まで参考論文とすることは認められます。

◆論文奨励賞

論文賞と同様に、総合題目での推薦(応募)をとりやめ、候補論文は単一論文となります。ただし、研究の経緯等で必要な場合は、過去4年以内に発表された論文(学会関係に限定)を2編まで参考論文とすることは認められます。また、候補論文は、候補者が筆頭著者の論文のみとし、筆頭著者でない論文は参考論文となります。

海外の協力協定学協会(締結順)

1	ASCE	(米国土木学会)
2	CSCE	(カナダ土木学会)
3	KSCE	(大韓土木学会)
4	EA	(オーストラリア工学会)
5	SVR	(スウェーデン土木構造工学会)
6	ICE	(英国土木学会)
7	CICHE	(中国土木水利工程学会)
8	CNISF	(フランス科学・技術者会議)
9	PICE	(フィリピン土木学会)
10	FECIC	(メキシコ土木学会)
11	ECCE	(ヨーロッパ土木技術者評議会)
12	CCES	(中国土木工学会)
13	EIT	(タイ工学会)

14	IES	(シンガポール工学会)
15	IEB	(バングラデシュ工学会)
16	VIFCEA	(ベトナム土木協会)
17	IEP	(パキスタン工学会)
18	TCCE	(トルコ土木学会)
19	IEM	(マレーシア工学会)
20	HKIE	(香港工程師学会)
21	MACE	(モンゴル土木学会)
22	IEI	(インド工学会)
23	NEA	(ネパール技術者協会)
24	PII	(インドネシア工学会)
25	KDPA	(特殊法人韓国防災協会)
26	TCG	(ギリシャ工学会)

技術功労賞受賞候補の例

本賞は、長年にわたり人目につきにくい業務に従事し、地道な実務の積み重ねを通じて土木工学の進歩発展に功労のあった者を対象としている。その対象分野としては、次の6分野がある。以下にその例を示す。

(1) 教育、研究、啓発

- ①土木教育において長年実験実習等（OJT等職場での教育を含む）に携わった者。また、教育方法の改善に役立つ、創意工夫を加えた者。
- ②実験、試験、研究、実験・試験機器の試作・改良に従事し、それらの促進に寄与する貴重な成果をあげることに貢献した者。
- ③土木工学を紹介する書物や映像の制作などに長年従事し、土木工学に対する一般大衆の理解を高めるなど、啓発活動に地道な努力を傾注した者。

(2) 調査、計画

- ①自然条件の観測、地形測量、図書、資料、統計データの収集、整理、分析、解析等に従事し、貴重な資料作成に貢献した者。
- ②長年の経験を生かし、プロジェクトの調査・計画に成果をあげた者。
- ③環境問題を考慮したプロジェクトに貢献のあった者。

(3) 設計、監理

- ①各種土木構造物の設計あるいは監理業務に従事し、貢献をした者。
- ②長年の経験を生かし、土木構造物の設計に貢献のあった者。
- ③長年の経験を生かし、合理的な監理手法や検査方法の改良に貢献のあった者。

(4) 用地、補償

- ①事業遂行に向け、境界確定、用地取得、区画整理、漁業補償等の交渉に従事し、数多くの貢献を果たした者。
- ②用地取得、補償の実施に際し必要となる基準等に関する資料収集、調査、研究、整備に数多くの貢献のあった者。

(5) 施工、検査

- ①事故防止のため、施工の安全高揚に精励し、数多くの貢献を残した者。
- ②工事現場に長年従事し、機械化の推進や施工方法の改善、衛生的な事務所や宿舍の確保など労働環境の改善に貢献した者。
- ③施工に関し、独自の検査方法を考案するなど品質の向上に多くの貢献があった者。

(6) 管理、運用、防災、保全

- ①長年にわたって、維持・管理業務に従事し、事故や災害を未然に防ぐために献身的に業務を遂行し、さらに業務の改善に地道な努力を行っている者（例えば、鉄道や道路、河川施設、港湾施設、上下水道、廃棄物処理場などの維持・管理業務）。
- ②各種の管理システムや運用システム、防災システム、保全システムについて、長年にわたり個々の技術やシステムの開発、改善に努め、省力化や省エネルギー化、効率化に貢献のあった者。
- ③土木構造物（敷地を含む）の安全管理や保全に長年従事し、貢献のあった者。

以上

土木学会委員会所管の表彰制度紹介

■【第 23 回土木学会映画コンクール】(映画コンクール審査委員会)

土木学会の映像作品に関するコンクールは 1964(昭和 39)年に第 1 回を開催してから 2 年ごとに行っており、今回は第 23 回となります。コンクールの目的は、土木学会会員はもとより、学生も含めた広く社会一般の方々に対して、土木に関わる様々な事柄、すなわち、社会基盤整備や土木技術の実際、そこで活躍する人々などを、映像を通して紹介を行い、それらに対する理解を深め、あるいは感銘を与え、また関心を高めることにより、社会基盤整備に対する適切な理解、土木技術の発展、土木技術者の資質と社会的評価の向上に資する、優れた映像作品を顕彰し、その企画者、制作者を表彰することです。

審査対象は以下の推薦要領にもとづく一般公募により、コンクールに応募した作品とします。

◎募集期間：2008(平成 20)年 10 月 1 日～2009(平成 21)年 1 月 20 日(必着)

問合せ先：事務局図書館業務室(土木図書館) 坂本真至

TEL.03-3355-3596 FAX.03-3355-6055 E-mail：library@jsce.or.jp

土木学会映画コンクール推薦要領

●候補の対象

土木学会会員はもとより、学生も含めた広く社会一般の方々に対して、土木に関わるさまざまな事柄、すなわち、社会基盤整備や土木技術の実際、そこで活躍する人々などを、映像を通して紹介を行い、それらに対する理解を深め、あるいは感銘を与え、また関心を高めることにより、社会基盤整備に対する適切な理解、土木技術の発展、土木技術者の資質と社会的評価の向上に資する、優れた映像作品を対象とする。

●受賞候補者

土木学会会員に限らない。

●候補の範囲

以下の条件を満たす映像作品を候補対象とする。

(1)2005(平成 17)年 4 月以降完成の映像作品であること。

(2)市販された映像作品あるいは図書館などでの公開が保証されている映像作品であること。

フィルム、ビデオの他 CD、DVD などの電子媒体を含む。但し土木学会企画・製作のものは除く。

(3)新規の映像作品として一定の水準を確保しているものであること。

企業 PR、資格試験の手引き、製品マニュアル、工法便覧などの単なる説明映像や、従来作品のリメイク版で一部のみが修正された映像作品などは除く。

●推薦の方法

(1)推薦資格者：正会員(個人、法人)、学生会員および特別会員とし、自薦も認める。

(2)推薦件数：2 件以内。ただし、土木学会土木技術映像委員会委員長は土木学会選定作品の中から 5 本まで推薦できる。

(3)推薦の手続き

推薦作品に関わる下記の項目を所定の推薦用紙(HP に掲載)にて土木学会映画コンクール審査委員会宛提出する。

提出方法は郵便、FAX、E-mail 等いずれも可。

a.推薦者氏名・会員種別

b.推薦者所属

c.推薦者連絡先(住所・電話番号・FAX 番号・E-mail アドレス)

d.推薦作品名・企画者名、製作者名、監督名、製作年月日

e.作品内容紹介(200 字程度)

f.推薦文(推薦作品の優れている点、土木への貢献度を 500 字以内にまとめる)

(注)すでに土木学会選定作品となっているもの以外は推薦書に必ず当該作品 1 本を添えて提出(寄贈)のこと。

●審査

土木学会映画コンクール審査委員会にて行う。

(内容説明会等は開催しません。賞に係わる事前説明は固くお断りいたします。)

●表彰

通常総会において行い、企画者(及び明示されている場合には監督)には賞状、賞牌を贈る。また、同時に受賞作品の制作者に対して感謝状を贈呈する。

●締切期日

平成 21 年 1 月 20 日(必着)

●提出先

160-0004 東京都新宿区四谷 1 丁目(外濠公園内)

社団法人土木学会 映画コンクール審査委員会

TEL：03-3355-3596 FAX：03-3355-6055 E-mail：library@jsce.or.jp

■【土木学会選奨土木遺産】(土木学会選奨土木遺産選考委員会)

選考の対象は、交通（道路、鉄道、港湾、河川、航空、灯標）、防災（治水、防潮、防風）、農林水産業（灌漑、干拓、排水、営林、漁港）、エネルギー（発電、炭田、鉱山）、衛生（上下水道）、産業（工業用水、造船）、軍事などの用途に供された広義の土木関連施設を対象とする。事業単位、もしくは、構造物単位の両方が対象となり得る。なお、当面、近代（幕末～昭和20年代）に完成したものを主たる対象とする。近世以前や昭和戦後（竣工後50年経過した段階で順次対象とする）についても、選考対象に含まれる。

●問合せ先：事務局企画総務課 山村照人 TEL.03-3355-3442 E-mail：t-yama@jsce.or.jp

■【水工学論文賞、水工学論文奨励賞】(水工学委員会)

水工学論文集に掲載された論文の中から優秀論文の選考を行う。

最優秀論文(1編程度)に対して水工学論文賞を、優秀論文のうち、水工学講演会での32歳以下の若手の発表者(3名程度)に対して、水工学論文奨励賞を授与する。

●問合せ先：事務局研究事業課 岩西伸介 TEL.03-3355-3559 E-mail：iwanishi@jsce.or.jp

■【海岸工学論文賞、CEJ論文賞】(海岸工学委員会)

海岸工学論文賞：海岸工学論文集に掲載され、かつ海岸工学講演会において発表を行った論文のうち、海岸工学における学術・技術の進歩発展に寄与し、独創性および将来性に富むものと認められるもの(3編程度)に授与する。

CEJ論文賞：Coastal Engineering Journalに掲載された論文のうち、海岸工学における学術・技術の進歩発展に寄与し、独創性と将来性に富むと認められた評価の高い論文に対して授与する。

●問合せ先：事務局研究事業課 岩西伸介 TEL.03-3355-3559 E-mail：iwanishi@jsce.or.jp

■【環境工学研究フォーラム論文賞、奨励賞、環境技術・プロジェクト賞、優秀ポスター発表賞】(環境工学委員会)

「審査付き論文セッション」で行われる発表の中から論文賞と奨励賞を、「環境技術・プロジェクトセッション」の発表の中から「環境技術・プロジェクト賞」を、また「自由投稿発表セッション」の発表の中から優秀ポスター発表賞を選考する。

●問合せ先：事務局研究事業課 佐々木淳 TEL.03-3355-3559 E-mail：ssk@jsce.or.jp

■【地球環境技術賞、地球環境貢献賞、地球環境論文賞、地球環境講演論文賞】(地球環境委員会)

技術賞：地球環境シンポジウムにおける展示の中で、地球環境問題の解決に貢献する土木・環境技術の開発および普及の観点から特に優れていると認められた展示(3件程度)に授与する。

貢献賞：地球環境シンポジウムにおける展示の中で、地球環境問題の解決に貢献する活動の観点から特に優れていると認められた展示(3件程度)に授与する。

論文賞：Journal of Global Environment Engineeringに地球環境問題に関する論文を発表し、これが土木・環境工学における学術・技術の進歩発展に独創的な業績を挙げ、顕著な貢献をしたと認められたもの(1件程度)に授与する。

講演論文賞：地球環境シンポジウム講演論文集に地球環境問題に関する論文を発表し、これが土木・環境工学における学術・技術の進歩発展に寄与し、独創性と将来性に富むと認められたもの(3件程度)に授与する。

●問合せ先：事務局研究事業課 佐々木淳 TEL.03-3355-3559 E-mail：ssk@jsce.or.jp

■【環境システム優秀論文賞、環境システム論文奨励賞、環境システム優秀発表賞】(環境システム委員会)

◎募集時期：規定を委員会ホームページ上で公開(平成16年度より従来の優秀ポスター賞に代わり3賞を新設)

環境システム優秀論文賞：環境システム研究論文集に掲載された論文から、環境システムに関して独創的な業績を挙げ、これが環境システムにおける学術・技術の進歩、発展に顕著な貢献をなしたものを選考し、授与する。

環境システム論文奨励賞：環境システム研究論文集に掲載された論文の著者から、環境システムにおける学術・技術の進歩、発展に寄与し、独創性と将来性に富むもので、受賞者の年齢が発表会開催年度の4月1日で満36歳未満であるものを選考して授与する。

環境システム優秀発表賞：環境システム研究論文発表会における発表のうち、ポスター発表については、美しさ、わかりやすさ、ユニークさを、口頭発表については明快さ、説得性、質疑への応答的確さを主たる評価の対象として選考し、授与する。

●問合せ先：事務局研究事業課 佐々木淳 TEL.03-3355-3559 E-mail：ssk@jsce.or.jp

■【デザイン賞、優秀講演賞・優秀ポスター賞】（景観・デザイン委員会）

デザイン賞：道路・街路・街並み・広場・公園・駅舎・河川・海岸・港湾・空港等の公共空間や、橋梁・堰堤・水門・閘門・堤防等の構造物等、実現した作品を対象として、特にその周囲との景観的、空間的関連のたせ方や、当該の空間・構造物に対する機能的要請を美的にどう解決したかという観点に照らして、優れた作品を公募、選定、表彰するものである。本賞は、優れた作品を選定するだけでなく、その実現に実質的に貢献した人々についても顕彰することを目的としている。また、耐久性が要求される公共空間や構造物を竣工直後に評価するのは難しいとの考えから、審査対象を竣工 2 年以上経過したものとしているのが特徴である。

優秀講演賞・優秀ポスター賞：研究活動および実践活動への意欲向上に役立てることを目的として、景観・デザイン研究発表会において、優れた口頭発表を行った 35 歳以下の若手研究者および優れたポスター発表を行った発表者に授与する。

●問合せ先：事務局研究事業課 橋本剛志 TEL.03-3355-3559 E-mail：hashimoto@jsce.or.jp

■【構造工学シンポジウム論文賞】（構造工学委員会）

構造工学論文集に掲載され、かつ構造工学シンポジウムにおいて講演を行った論文のうち、構造工学における学術・技術の進歩発展に寄与し、独創性および将来性に富むと認められた評価の高い論文に授与されるものである。

●問合せ先：事務局研究事業課 増永克也 TEL.03-3355-3559 E-mail：masunaga@jsce.or.jp

■【応用力学論文賞、応用力学論文奨励賞、小林メダル】（応用力学委員会）

応用力学論文賞：応用力学論文集に掲載され、かつ応用力学シンポジウムにおいて講演を行った論文のうち、応用力学における学術・技術の進歩発展に寄与し、独創性および将来性に富むものと認められるものに授与する。

応用力学論文奨励賞：応用力学論文賞に準ずる優れた論文のうち、発表年の 4 月 1 日において満 36 歳未満の著者に授与する。

小林メダル：独創性および将来性に富み、極めて優れた成果を上げた論文あるいは論文群の著者ないし著者グループに授与する。

●問合せ先：事務局研究事業課 増永克也 TEL.03-3355-3559 E-mail：masunaga@jsce.or.jp

■【舗装工学論文賞】（舗装工学委員会）

舗装工学論文集に掲載された論文の中から優れたものを選定して表彰する。

募集時期：例年 4 月に募集告知

●問合せ先：事務局研究事業課 二瓶貞洋 TEL.03-3355-3559 E-mail：snihei@jsce.or.jp

■【トンネル工学研究発表会優秀講演賞・優秀講演奨励賞】（トンネル工学委員会）

トンネル工学研究発表会において講演を行った研究者・技術者を対象に、以下の各賞を審査した上で優れているものに授与する。

優秀講演賞：論文・報告内容が簡潔明瞭で優れた講演を行った者に授与する。審査内容は「講演のわかりやすさ」、「発表資料（パワーポイント）の出来映え」、「講演時間」、「質疑応答」について審査する。

優秀講演奨励賞：論文・報告内容が簡潔明瞭で優れた講演を行った 30 歳以下の者に授与する。審査内容は優秀講演賞と同じ項目について審査する。

募集時期：例年 3 月に募集告知

●問合せ先：事務局研究事業課 岡田絵美 TEL.03-3355-3559 E-mail：okada@jsce.or.jp

■【岩盤力学に関するシンポジウム優秀講演論文賞、優秀ポスター賞】（岩盤力学委員会）

岩盤力学に関するシンポジウムにおいて講演を行った論文の中で、原稿と発表の内容が非常に優れているものに対して授与する。

優秀講演論文賞：原稿と発表（口頭またはポスター）が優れたものに対して授与する。原稿で「応用性・実用性」、「新規性・重要性」、「完成度」、「将来性・発展性」を審査する。また、発表で「発表内容と研究の完成度」、「わかりやすさ」、「口頭発表資料（パワーポイント）またはポスターの出来映え」、「質疑応答」について審査する。

優秀ポスター賞：原稿と発表（ポスター）が優れたものに対して授与する。原稿で「応用性・実用性」、「新規性・重要性」、「完成度」、「将来性・発展性」を審査し、シンポジウム参加者の投票結果も加味して選考する。

●問合せ先：事務局研究事業課 増永克也 TEL.03-3355-3559 E-mail：masunaga@jsce.or.jp

■【地震工学研究発表会論文賞・論文奨励賞】（地震工学委員会）

地震工学論文集に掲載され、発表を行った著者全員が論文賞受賞候補者となり、研究発表会終了時点で 36 歳未満の第一著者が論文奨励賞受賞候補者となる。

募集時期：発表会開催年の 1 月に募集告知

●問合せ先：事務局研究事業課 二瓶貞洋 TEL.03-3355-3559 E-mail：snihei@jsce.or.jp

■【情報利用技術シンポジウム優秀発表賞】（情報利用技術委員会）

情報利用技術シンポジウムにおいて講演を行ったなかで、原稿と発表の内容が非常に優れている学生に対して授与する。

募集時期：例年5月に募集告知

●問合先：事務局研究事業課 二瓶貞洋 TEL.03-3355-3559 E-mail：snihei@jsce.or.jp

■【木橋技術に関するシンポジウム優秀賞】（鋼構造委員会）

木橋技術に関するシンポジウムで発表された論文報告のうち、独創的かつ水準が高く木橋技術の進歩への貢献が認められ、発表対応にも顕著に優れたものに対して授与する。

●問合先：事務局研究事業課 佐々木淳 TEL.03-3355-3559 E-mail：ssk@jsce.or.jp